

不二速報



発行日 2008年 11月 25日

第5号 (第2回団体交渉のご案内, 全大教・静大教研集会のご報告)

第2回団体交渉が開催されます

来月(12月)1日に、浜松キャンパスにおいて第2回団体交渉を行います。交渉には、前回に引き続き興学長自らが出席されます。第1回の交渉において合意に至らなかった事項も含め、今回は以下について交渉を予定しています。

1. 来年度以降の大学財政運営について

政府より、来年度の運営費交付金が今年度比 3%削減されるとの方針が示される中、今後大学としてこの事態にどのように対処していったらよいかを議論します。具体的には以下の事項について回答を要求します。

- ・現在静岡大学では、運営費交付金剰余金(目的積立金)がどの程度執行されずに残っており、法人化以降現在までそれを何に使用してきたのか、また第1期中期目標・中期計画が終了する来年度末までに、これらをどのように執行する予定であるのか。
- ・本年5月に大学より提示された「人件費削減計画及び教員の戦略的配置について」は、今後見直しを行う予定はあるのか。
- ・地域調整手当の東西キャンパス間格差の是正。

2. 非常勤職員の処遇改善について

本年8月に、人事院より非常勤職員に対する給与について通知が出されました。これをもとに、「非常勤職員への夏期・冬期の一時金支給」「夏期特別休暇の増大」「時間単価の改善」などを強く求めています。さらに、法人化以降に採用されたパート職員の一律 3年雇い止めの撤回も要求します。

3. その他重要事項について

静岡大学教職員組合

静岡：
〒422-8529
静岡市駿河区大谷 836

TEL/FAX:
054(236)0173 (直)
054(237)1111 (代)
2790 (内線)

E-mail
suu@jade.dti.ne.jp

浜松：
〒432-8561
浜松市中区城北三丁目 5-1

TEL/FAX:
053(475)9035 (直)
3910 (内線)

E-mail
suu-seibu@vcs.wbs.ne.jp

目次：

団体交渉の ご案内	1～2
全大教の 教研集会	2～3
静大の 教研集会	3～4

今回の交渉においては、1と2の項目に焦点を当て、集中的に議論を行う予定です。前回の交渉で一定の合意を得たサービス残業根絶の問題や、来年度より本格実施が予定されている人事評価制度の運用の問題点などについては、今後人事・労務課との個別折衝において課題として取り上げ、交渉を続けていくことが確認されています。

つきましては、組合員の方々の意見を交渉に反映させたいと思いますので、お近くの支部役員あるいは書記局に情報や要求をお寄せください。新しい事項の追加から、上に述べた要求についての意見まで何でも結構です。

また、当日の団体交渉に多くの方々に参加いただけますよう、あわせてお願いいたします。

全大教第20回教職員研究集会参加記



2008年9月13日から15日の日程で、電気通信大学において全大教第20回教職員研究集会が開催されました。今回のテーマは、「第2期中期に向け、切り拓こう大学・高等教育の未来を」でしたが、法人化から5年目を迎えますますます厳しさを増す、教育・研究、労働環境、追い打ちをかける予算削減といった状況のなかで、どの会場でも真剣（というよりも深刻）な議論が交わされたようです。

私は、今回の「趣旨」で課題の一つにも挙げられた、「B1過半数を目指す組合づくりと組合活動の改善」という分科会に14日、15日の2日間参加しました。合計8大学から報告がありましたが、静大からもレポートが出ていたため期せずして私も報告することになりました。各報告を聞くと、大学の規模やこの法人化の間にたどった経緯、伝統的な組合のスタイルなどがあって、組合が抱える状況もさまざまであることを感じました。

鹿児島大など医学部・病院を抱える大学からは、新採の看護師に加入してもらうことで組合員の拡大につながったとの報告がありました。同じように、新人研修の機会を利用して採用された人を加入させることができるかどうか、組合に入ってもらえるかどうかの大きな分かれ目になる、という認識は各大学が共有したところでした。信州大からは、「なぜ組合は嫌われるか」という、多少ショッキングな内容の報告がありました。組合の中でも管理職的にふるまう教授、教員主体の組合から職員が離れていく、などの報告があり、いくつかの大学から執行部委員の選出状況など組合運営の問題点なども出されました。一方で、電通大などから教職員個々人に対する取り組みから少しずつ組合員が増加するというような報告もあって、急きょむしろ「嫌われない組合づくり」とはといった議論にもなりました。静大からの報告では、レポートに沿って新任教員研修会での勧誘の取り組みなどについて報告したほか、残業問題など最近日常的に扱っている取組や組合のメリットのアピールなどを取り入れたビラの配布などいくつかの報告を加えました。

最終的には、すでに全大教から示されている「組合員拡大マニュアル」をもう一度点検して、執行部での取り組みの確認、拡大のための組織を組む、キャンペーンや特別予算、チェックオフ実施などに確実に取り組んでいくといったことが拡大につながるということを確認しました。静大の執行部でももう一度その辺を点検する必要があるようです。

先にも述べたように、いろんな組合があるものだと感じました。静大では毎年執行部が全員入れ替わりますが、執行部のなり手がなくて同じ執行委員が数年担当する組合もあるようです。静大のように毎年代わるのは望ましいことだとは思いますが、取り組みの継続性という点では、問題がないわけでもなさそうです。静大ではなんとか維持できたチェックオフも、それができずに組合費の徴収に苦勞している組合も多いようです。静大の組合を少し外側から見た気分を味わいながら、少し秋の気配を感じる小さな調布のキャンパスをあとにしました。



文責 篠原和大 (教育文化部)

2008年度 静大教職組教育研究集会報告

9月29日(月) 12:30-14:20、静岡キャンパス共通教育A棟301教室と浜松キャンパス情報学部大会議室をTV会議システムで結んで、今年度の「教研集会」が開催されました。組合員は昼休みの12:30に会場に集まり、お弁当を食べながらの集会でした。

12:40から13:00まで、全大教全国教研集会(9月13、14、15日)に参加した教育文化部の篠原先生から、各大学とも組合員の拡大に苦勞している様子をはじめ、議論の内容について報告がありました。

引き続いて、13:00から14:00まで、「NPO法人 自立サポートセンター・もやい」を主催する湯浅誠氏による、「今日の日本社会におけるワーキングプアの実態」と題する講演を聞きました。

これまで、「貧困」「格差」、あるいは「正規労働」「非正規労働」といった問題は、マスコミを中心にいろいろな場で、またいろいろな形で取り上げられてきてはいましたが、今年度6月に開催された組合の定期大会で、学内の教職員全体のうち、パート職員、派遣社員等非正規職員の占める割合が、単純人数比とはいえ、正規職員を上回っていることが明らかになり、主に正規職員中心の構成になっている組合としては、現状を再認識する必要性が痛感された結果、今回の講演会実施につながったものです。

お知らせ 湯浅誠さんの講演会があります! ぜひご参加ください。

演題:「貧困とワーキングプア」

日時:2008年12月4日(木)13:00~(入場無料)

場所:人文学部大講義室 (2008年度 人文学部・経済学会秋季講演会)

静岡大学教職員組合公式HPも
ご覧ください。(随時更新中)

<http://www.jade.dti.ne.jp/~suu/>

働きやすい職場を

実現したいと思いませんか？

.....

第2回団体交渉 [浜松キャンパス]は**12月1日午後2時**から始める予定です。場所など詳細は後ほどメールでお知らせします。多数のご参加をお待ちしています。

組合への加入をお勧めください！

- ・全大教のパンフレットあります。
「力を合わせて大学・高等教育を守るとき」
「アンケートから見える事務職員の気持ち」
「大学に男女共同参画の実現を」
- ・今年度執行部で作った「パンフレット」あります。
- ・新たに「非常勤職員向けパンフ」を作りました。ご利用ください。

スキーと温泉の集い
12/26夜~12/29・白馬
 今なら間に合います・・
 大至急お申し込みを！



湯浅誠氏は、今年4月に発売された岩波新書『反貧困』の著者であり、氏自身「派遣社員」として働くなど、「貧困」「格差」の実体験を豊富にお持ちの方で、話の内容も必然的に重いものとなりました。特に氏が強調されていたのは、今、俗に「負け組」といわれている人たちが置かれている状況、いわゆる「格差」は、巡りめぐって必ず「勝ち組」にも及んでくるし、また実際、「非正規社員」の低賃金との比較から、成果主義のかけ声のもと、「正規社員」の労働が強化され、労働時間が長くなるというような形で、すでに多々出てきているということでした。

講演会の聴衆は、静岡会場52名、浜松会場18名、計70名でした。組合員の他、一般の教職員、学生、一般市民の方など、多種多様でした。講演会終了後、湯浅氏の都合で、15分ほどではありましたが、質疑応答があり、待ちかねたかのように農学部学生から質問が出るなど、この問題については学生の間でも関心が高いことがわかりました。

最後に、講演会終了後実施したアンケートに寄せられた声のうち、紙幅の関係でごく一部ですが、挙げておきます。

「ためになる話で、参加してよかったと思う。今後も同様の講座をシリーズ化してほしい。」(人文、教員、組合員)

「働く人に社会保障を、雇用保険のあり方など、これからの課題として意識し、ゼミの研究で追求していきたいです。」(人文、学生)

「すごくためになりました。雇用保険についての実情や、非正規社員の不遇など、直に聞くことを聞いてよかったです。」(人文、学生)

「とてもよい企画でした。湯浅氏のお話をもっとじっくり聞きたかったです。…(組合に対する要望) 日頃のご活躍ご苦労様です。これからも大学の民主化のためがんばってください。特に大学内での非正規職員の増大は大問題だと思います。」(一般市民、人文卒業生)

文責 池津國樹 (教育文化部)

助手・助教ランチミーティングを開催します。 助手・助教の皆さん、お集まりください！

◇日時 12月1日(月) 12:00~13:00
 ◇場所 組合西部書記局(浜松キャンパス)

助手・助教の皆さんが抱えている悩みや問題を把握するため、ランチミーティングを開催します。生の声をお聞かせください。

※昼食を準備いたします。ご参加いただける方は、11月28日正午までに書記局まで、ご連絡ください。